2024 年度　長岡大学シラバス

| 授業科目名<br>科目コード | ゼミナールⅣ（Seminar Ⅳ）<br>264046-14-000 | | | | | 担当教員 | 栗井　英大<br>（クリイ　ヒデヒロ） | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目区分 | ゼミナール科目 | 必修・選択区分 | 必修 | 単位数 | 2 | 配当年次 | ４年次 | 開講期 | 通年 |
| 科目特性 | 協同学習型 AL／課題解決型 AL／外部講師招聘科目 | | | | | | | | |

| ① 授業のねらい・概要 |
|---|
| 長岡市には、例えば食料品・機械器具・金属製品・繊維など、他地域に誇れる産業・企業が存在している。しかし、ＰＲ不足を主因に、認知度が低い産業・企業も少なくない。その結果、市内企業に就職する学生も限定的である。そこで、長岡市の優れた産業・企業の認知度を高める活動を行う。<br>まず、統計資料・HP 等を参考に、長岡市の産業とその特徴、代表的な企業とその企業の強み、ビジネスモデル等の知識を得る。次に、積極的に企業見学・ヒアリングを行い、現場を見る・聞く・考えることで、産業・企業への理解を深める。その後、それまでの活動内容を基に、産業・企業の誇れる点、すなわち「強み」を探し出し、そのＰＲ手法を検討・実行する。加えて、企業経営・ビジネスモデルに関する知識の深化と実践を目的として、ビジネスプランを自ら構築する演習・発表等を行い、その成果をビジネスコンテスト・起業関連コンテストへ応募することを推奨する。<br>長岡市の産業・企業の知識習得、「強み」発見、「見える化」の過程を通して、社会人基礎力を高めていく。また、「５つの力」（聴く力・話す力・書く力・考える力・時間力）を鍛え、就職活動に資する力、社会人に必要な基本スキルを高める。 |
| ② ディプロマ・ポリシーとの関連 |
| １地域社会に貢献する姿勢／２職業人として通用する能力／３専門的知識・技能を活用する能力／４コミュニケーション能力／５情報収集・分析力を養う。 |
| ③ 授業の進め方・指示事項 |
| 正当な理由のない遅刻・途中退席は認めない。<br>学生の意見を取り入れつつ講義を進める。積極的な意見表明を期待する。 |
| ④ 関連科目・履修しておくべき科目 |
| 「地域活性化論」、「起業家塾」の受講を推奨する。 |
| ⑤ テキスト（教科書） |
| テキスト指定なし。必要に応じて授業時に資料を配布する。 |
| ⑥ 参考図書・指定図書 |

須田寛（2015）『産業観光ーものづくりの観光』交通新聞社
その他、テーマに関連した参考文献や関連情報を必要に応じ紹介する。

⑦　評価Aに対応する具体的な学習到達目標の目安

（ｉ）オープンファクトリーを理解・説明することができる。
（ii）成果発表会に向けた発表資料を作成し、プレゼンテーションを実施することができる。
（iii）活動報告書を作成することができる。

⑧　ルーブリック

| 評価項目 | 評価基準 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | S | A | B | C | D |
| | 到達目標を越えたレベルを達成している | 到達目標を達成している | 到達目標達成にはやや努力を要する | 到達目標達成には努力を要する | 到達目標達成には相当の努力を要する |
| （ｉ）オープンファクトリーの理解・説明 | 新たな手法を用いて、論理展開に必要な調査を実施することができる | 自発的に、論理展開に必要な調査を実施することができる | 論理展開に必要な調査を実施することができる | 指示された範囲で、論理展開に必要な調査を実施することができる | 指示された範囲の、論理展開に必要な調査が不十分である |
| （ii）プレゼンテーションの実施 | 聴衆を引きつけるプレゼンテーションができる | 聴衆に正確に理解されるプレゼンテーションができる | 聴衆に理解されるプレゼンテーションができる | 聴衆にプレゼンテーションの内容がほとんど理解されない | 聴衆にプレゼンテーションの内容が理解されない |
| （iii）報告書の作成 | 他人を引きつける報告書を作成することができる | 論理が通った報告書を作成することができる | 報告書を作成することができるが、一部不足する点がある | 報告書を作成することができるが、不足する点がある | 報告書を作成することができない |

| ⑨　学習到達目標（評価項目） | 定期試験（レポート含む） | 小テスト | 課題 | 発表・実技 | 授業への参加･意欲 | その他 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 総合評価割合 | | | 30% | 30% | 10% | 30% | 100% |
| （ｉ）オープンファクトリーの理解・説明 | | | 10% | 10% | 3% | 10% | 33% |
| （ii）プレゼンテーションの実施 | | | 10% | 10% | 4% | 10% | 34% |
| （iii）報告書の作成 | | | 10% | 10% | 3% | 10% | 33% |
| フィードバックの方法 | 初回講義内で、成績評価の方法・基準、講義の進め方等について、具体的に説明するので、出席すること。 | | | | | | |

⑩　担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）

| |
|---|
| 学生の理解度・適性を確認しながら、運営していく。 |

| ⑪　授業計画と学習課題 | | | |
|---|---|---|---|
| 回数 | 授業の内容 | 授業外の学習課題と時間（分）<br>（※特別な持参物） | |
| 1 | ゼミⅣの概要説明<br>自己紹介 | 昨年の取組確認 | 180 分 |
| 2 | 今年の活動内容決定<br>工場見学準備 | ヒアリング先調査、質問検討 | 180 分 |
| 3 | 工場見学①（予定）<br>長岡市内製造業 | ヒアリングシート作成 | 180 分 |
| 4 | 工場見学振り返り<br>きものＧＯＴＴＡＫＵ視察準備 | ヒアリング先調査、質問検討 | 180 分 |
| 5 | きものＧＯＴＴＡＫＵ視察準備 | ヒアリング先調査、質問検討 | 180 分 |
| 6 | きものＧＯＴＴＡＫＵ振り返り | ヒアリングシート作成 | 180 分 |
| 7 | 工場見学準備 | 発表準備 | 180 分 |
| 8 | 製造業へのアンケート調査 | ヒアリング先調査、質問検討 | 180 分 |
| 9 | 工場見学②　（予定）<br>長岡市内製造業 | ヒアリングシート作成 | 180 分 |
| 10 | 工場見学振り返り<br>悠久祭出店検討 | 悠久祭出店準備 | 180 分 |
| 11 | 工場見学準備 | ヒアリング先調査、質問検討 | 180 分 |
| 12 | 工場見学③（予定）<br>長岡市内製造業 | ヒアリングシート作成 | 180 分 |
| 13 | 工場見学準備<br>場見学振り返り | ヒアリング先調査、質問検討 | 180 分 |
| 14 | 工場見学④（予定）<br>長岡市内製造業 | ヒアリングシート作成 | 180 分 |
| 15 | 工場見学振り返り<br>ビジネスプランの作成 | ビジネスプランの作成 | 180 分 |
| 16 | 後期の活動内容確認<br>「工場の祭典」視察準備 | ヒアリング先調査、質問検討 | 180 分 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 17 | 「工場の祭典」視察準備 | ヒアリング先調査、質問検討 | 180 分 |
| 18 | 悠久祭準備<br>製造業へのアンケート調査 | 悠久祭準備<br>アンケート票作成 | 180 分 |
| 19 | 悠久祭準備<br>製造業へのアンケート調査 | 悠久祭準備<br>アンケート票作成 | 180 分 |
| 20 | 悠久祭準備<br>製造業へのアンケート調査 | 悠久祭準備<br>アンケート票作成 | 180 分 |
| 21 | 発表会準備（パワポ作成） | 発表用パワーポイント作成 | 180 分 |
| 22 | 発表会準備（パワポ作成） | 発表用パワーポイント作成 | 180 分 |
| 23 | 発表会準備（発表練習） | 発表用パワーポイント作成 | 180 分 |
| 24 | 中間レビュー | 発表練習 | 180 分 |
| 25 | 発表会準備（発表練習） | 発表練習 | 180 分 |
| 26 | 報告書作成 | 報告書作成 | 180 分 |
| 27 | 報告書作成 | 報告書作成 | 180 分 |
| 28 | 報告書作成 | 報告書作成 | 180 分 |
| 29 | 報告書作成 | 報告書作成 | 180 分 |
| 30 | 報告書作成 | 報告書作成 | 180 分 |

| ⑫　アクティブラーニングについて |
|---|
| 協同学習型 AL・課題解決型 AL を採用する。<br>資料調査・企業ヒアリングを基にした発表・ディスカッション等を通じて、学生自ら産業・企業の強み・課題を探求し、製造業の「見える化」案を構築する。<br>また、ビジネスプランの作成、ブラッシュアップ、ビジネスコンテストへの参加により、ビジネスモデルの知識の実践を目指す。 |

※以下は該当者のみ記載する。

| ⑬　実務経験のある教員による授業科目 |
| --- |
| 実務経験の概要 |
| 平成 15（2003）年 3 月～平成 24（2012）年 6 月まで、(財)新潟経済社会リサーチセンターに在籍。研究員として、新潟県経済の調査分析および業界動向等の調査レポート作成業務に従事した。 |
| 実務経験と授業科目との関連性 |
| 県内外の地域活性化事例に触れ、各種レポート作成に携わった経験を生かし、長岡地域を活性化すべく、活動を行っていく。 |